

# わが

## 市民とともに 「元気な十和田市づくり」

はじめに

十和田市は、青森県の南東部中央に位置し、古い歴史を有する農村地帯と、近代都市計画のルーツといわれる整然と区画された市街地とで形成されています。西方には十和田八幡平国立公園が広がっており、八甲田山系や国の特別名勝および天然記念物に指定されている「十和田湖」と「奥入瀬渓流」が



神秘的湖「十和田湖」

あります。本市は、こうした近代都市機能と雄大かつ美しい自然を有するまちです。

### アートによるまちづくり

本市のシンボルロードである「日本の道100選」に選ばれた官庁街通り(通称・駒街道)では、省庁再編による国の事務所の統廃合などによって多くの空き地が見られるようになりまし。そのため、より魅力的で美しい官庁街通りの景観をつくり出すとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として「Arts Towada(アーツ・トワダ)」計画に取り組みをされました。この計画は、官庁街通りという屋外空間を舞台に、通り全体を一つの美術館に見立て、多様なアート作品を展開し、個性あふれる「アートの街」感動・創造都市

として国内外の多くの人々に印象付けることを目指したものです。

平成20年4月の十和田市現代美術館開館に続き、官庁街通りのストリートファニチャーやアート広場の完成により、平成22年4月にArts Towadaは、グラランドオープンしました。来館者は美術館開館以来4年間で66万人を超え、十和田湖や奥入瀬渓流などの大自然とともにまちなかの新たな観光スポットとして定着しました。

### 豊かな農畜水産物

農畜水産物では、にんにく、長いも、ごぼう、ねぎ、十和田湖和牛、奥入瀬ガリーリックポーク、十和田湖ヒメマスなど、安全安心でおいしい食材の宝庫です。特に、にんにくは日本一の生産量を誇っています。この豊かな農畜水産物につ

### 安全で安心な暮らし

平成21年8月に、国内で2番目

のWHOセーフコミュニティの認証を取得しました。セーフコミュニティとは、安全で安心に暮らせるまちづくりを目指しているコミュニティのことです。事故によるけが、犯罪、自殺などを、行政や団体が、市民などの協働で予防するために、その方法を科学的な視点から確認し、改善につなげていく、このような取り組みを地域ぐるみで実践しています。セーフコミュニティを推進した背景には、ボランティア意識の高い市民が多く、あらゆる分野において人材が豊富なまちであることが要因となっています。

認証に向けた取り組みは、平成17年10月から始まりまし。ボランティアによる検討会が設置され、



安全安心でおいしい食材の宝庫

認証の可能性や部門横断的な取り組みについて検討されました。その後、この取り組みに行政組織が加わることで、市民との協働によるセーフコミュニティの基礎が築かれ、活動を続けてきました。平成20年3月に「十和田市セーフコミュニティ推進協議会」が設置され、その活動の成果として、WHOセーフコミュニティの認証を取得し、積極的に安全安心な暮らしの実現に取り組みんでいます。

### 市民力での未来遺産登録

平成23年12月に、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録されました。本市は、今から約150年前に南部盛岡藩士新渡戸傳をはじめとする先人たちが大規模開拓を志し、努力と英知により人工河川・稲生川の開削を行ったことで、今日の礎が築かれました。この発展の礎となった稲生川の自然、歴史、文化を守り、保全と活用に力を注ぎ、未来へと受け継いできた市民活動が地域づくり活動として評価され、登録に至ったものです。この登録を機に、自然環境保全や地域づくり、人づくりなどの活動が、さらに市民の間

### プロフィール

- ◆ 面積 725.67km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万5076人
- ◆ 世帯数 2万6789世帯

〔将来都市像〕感動・創造都市、く人が輝き、自然が輝き、まちの個性が輝く理想郷。

〔まちの特徴〕秀峰八甲田の裾野に拓け、神秘的湖「十和田湖」、千変万化の美しい流れを織りなす「奥入瀬渓流」、近代都市計画のルーツといわれ整然と基盤の目状に区画された町並みなど、豊かな自然と近代的な都市機能が調和した美しいまち

〔市町村合併〕平成17年1月1日、新



十和田市長 小山田 久



設合併

〔特産品〕にんにく、長いも、ごぼう、ねぎ、十和田湖和牛、十和田湖ヒメマス、十和田湖杉など

〔観光〕十和田湖・奥入瀬渓流、十和田市現代美術館、国指定重要文化財「旧笠石家」、十和田市立新渡戸記念館、十和田市観光物産センター、十和田市馬事公苑など

〔イベント〕桜流鏝馬、十和田湖湖水まつり、十和田市秋まつり、奥入瀬川サーモンフィッシング、十和田湖冬物語など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## ずっと住み続けたいまち 和光市を目指して

はじめに

和光市は、埼玉県南西部に位置し、面積11・04㎢という狭い市内に東京外環道のインターチェンジを2カ所抱え、中心にある和光市駅からは所要時間13分の池袋をはじめ、銀座、渋谷、新宿という東京を代表するすべての繁華街に電車一本で行ける利便性と、緑や湧水に代表される自然環境を併せ持つ近郊型の住宅都市として発展してきました。

過去には財政面では比較的恵まれた時期が続き、平成22年度までは地方交付税の不交付団体でした。しかしながら、リーマンショック以降の景気の冷え込みにより、法人市民税を中心に税収が最盛期より1割以上落ち込み、平成23年度は26年ぶりに地方交付税の交付団体

となりました。現在、歳出や料金体系の見直し、税や料金の収納強化などに努め、財務体質の強化を図っているところです。

### 介護予防で全国をリード

本市の施策で最も特徴的なのは介護予防です。本市は平成14年度から介護予防事業に取り組み、多彩な事業展開で高齢者の参加を促しています。例えば「アミューズメント・カジノ」は、本場のカジノと同じ機材を使ってルーレットやトランプを楽しんでいただきます。これは軽度認知症改善のプログラムであり、ここで駆け引きや点数計算を行うとともに、喜怒哀楽のある時間を過ごすことが脳の刺激になっていきます。また、遊びの要素をプラスすることで参加意欲が引き出され、閉じこもりを予防す



認知症予防の一環で行われる「アミューズメント・カジノ」

る効果もあります。さらに、事業を運動・栄養・口腔機能向上の教室と組み合わせることで、全国的に、各事業の参加者も増えています。この成果は数字にも現れており、要介護の認定率は、全国平均17・4%に対し、本市は10・2%と低く、介護保険料も4150円と、全国平均の4972円と比較

すると低い水準になっています。また、本年度からの介護予防を含む制度改正については、本市で実施してきた生活圏域ニーズ調査事業などを参考に、全国展開されています。「地域で一日も長く元気に」を主眼に事業を展開し、健やかな老いを応援することこそが、本市の狙いといえます。

### 国有施設などの集積を生かす

戦前は陸軍が、戦後は米軍が所在した市南部の基地跡地を中心に、市内には公的機関として理化学研究所、司法研修所、国立保健医療科学院、税務大学校、裁判所職員総合研修所、さらには陸上自衛隊朝霞駐屯地、国立病院機構埼玉病院、民間の目白大学大学院、本田技術研究所が立地しており、本市は全国でも屈指の研究学園都市といえます。ただし、目白大学大学院を除いては一般に開かれた組織ではないため、この知的集積をいかに地域の資源として活用するか

が大きな課題となっています。

まず、市民大学に各施設から講師を派遣していただいています。また、平成23年度からは新たに「子ども大学わこう」を開講し、理化学研究所、税務大学校、国立病院機構埼玉病院から講師を派遣していただきました。平成22年度には独立した市民講座としてノーベル化学賞受賞者の野依良治・理化学研究所理事長にもご講演をいただきました。



市内の水辺で子どもたちを対象に行われる「夏休みジャブジャブ大会」

陸上自衛隊東部方面音楽隊には市民文化センターにおける定期公演のほか、小学校やイベントでの演奏をお願いしており、本年度は

中学校、高等学校吹奏楽部の部員への演奏指導も予定しています。今後は、年に1回実施している各機関と市との連絡会議をさらに活用して、地域の活性化につなげていく予定です。

### 地下鉄副都心線の 横浜中華街乗り入れを 発展の起爆剤に

平成25年3月には東京メトロ副都心線が東急東横線との直通運転を開始します。平成20年6月の副都心線全線開通により、本市は新宿、渋谷という東京の2大繁華街と直接結ばれ、住宅都市としてさらなる発展期を迎えました。全線開通当初、朝のラッシュ時でもゆとりのあった副都心線の列車は徐々に混雑し、副都心線を利用した通勤を前提とした居住が定着してきたように思われます。和光市駅の1日当たりの乗降客数も副都心線開業前は約24万1000人でしたが、3年後には約31万4000人と約23%増加しています。また、今後の横浜方面との相互乗り入れにより、元町・中華街駅とは1時間程度で結ばれることとなります。和光市駅は埼玉の玄関口として、また、横浜方面への乗り継ぎの拠点として、ますます乗降客数が増加することが期待されます。

**プロフィール**

- ◆ 面積 11・04㎢
- ◆ 人口 7万6774人
- ◆ 世帯数 3万6281世帯

〔将来都市像〕みんなで作る、快適環境都市 わこう

〔まちの特徴〕東京都に隣接する本市は、平均年齢が40歳と大変若いまち。緑と湧水などの豊かな自然環境と便利な都市環境を併せ持つまちとして、

現在も大きく躍進を続けている

〔特産品〕庭先販売の新鮮野菜（ホウレンソウ、ニンジンなど）、「はやぶさ」にも使用された精密機器

〔観光〕和光樹林公園、新倉ふるさと民家園

〔イベント〕ニッポン全国鍋合戦、和光市民まつり

さいたま市 和光市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 市民が生きいきと にぎわいにあふれているまちを目指して

## はじめに

柏原市は、大阪平野の南東部、大阪府と奈良県との府県境に位置し、奈良盆地の諸流を集めた大和川が、金剛・生駒山地を横断して大阪平野に流れ出る付近に、その町並みを形成しています。市の面積25・39km<sup>2</sup>の3分の2を山間部が占め、中央部を大和川が流れているという市域の特徴から、大阪の都心からわずか20kmほどの距離にありながら、緑の山々と美しい渓谷、豊かな川の流れなど、多彩な自然環境に恵まれた市となっています。

この自然環境を利用した産業として、山麓にはぶどう畑が多く、このぶどうからできたワインは、柏原地ワインとして知られています。

基壇復元に当たっての参考とされました。本市では、この貴重な文化遺産を将来に向かって保存するとともに、広く市内外の皆さんに活用していただくため、史跡公園整備などに向けての取り組みを進めています。

## まちづくりの拠点 サンヒル柏原

このような豊富な文化遺産や自然を基にしたまちづくりの拠点の一つとなるのが「柏原市健康保養センターサンヒル柏原」です。この施設は、平成21年度末までに売却される予定であった「国民年金健康保養センターサンヒル柏原」を買収し、本市を訪れた方々の宿泊施設や市民の皆さんの憩いの施設として、平成21年10月にリニューアルオープンしました。

多くの歴史をはぐくんできた大和川を眼下におさめる風光明媚な高台に建ち、テニスコート5面、流水プールやスライダーを持つこの施設は、周辺に史跡高井田横穴公園、柏原市立歴史資料館などの公共施設や歴史遺産が点在し、本市の史跡巡りや自然散策の起点とするには絶好の場所にあります。

また、かつて本市を含む河内地方においては木綿栽培が盛んで、栽培された綿から糸を紡いで手織りされた河内木綿を基にゆかた生地が生産が行われ、最盛期は全国シェアの約25%を占めていました。

柏原の歴史をひもとくと、その歴史は古く、約3万年前にさかのぼってその足跡を知ることが出来ます。

市内には、山麓台地に残る縄文、弥生時代の遺跡に始まり、原始から古代、近世にわたる多くの遺跡や文化財が存在し、歴史的に貴重な地域となっています。これらの遺跡や自然は、本市にとって長年にわたり受け継がれてきた貴重な財産であり、これらの歴史遺産などを今後も守り伝えていくとともに、これらを活用したまちづくりを目指しています。



平成21年にリニューアルオープンした「柏原市健康保養センターサンヒル柏原」

また、宿泊施設としてだけではなく、特産のゆかたやワインを楽しんでいた「サンヒル柏原ゆかた祭り」、地元ブランドの食と物産を集めた「物産フェア」、市内企業のものづくりを紹介した「ものづくりフェア」などのさまざまなイベントを開催することにより、広く市内外に本市の魅力を発信していく施設として有効に活用していきたいと考えています。

## いにしえから未来へ

本市のこれまでの人口推移を見ると、1997年を境に年々減少しており、市民の高齢化も進んでいます。大都市のベッドタウンとして発展していく一方で、地場産

## 新たな国指定史跡の誕生

本市には、既に3件の国指定史跡がありますが、それらの史跡に加え、本年1月に新たな国指定史跡が加わりました。奈良時代の歴史が記された「続日本紀」にその名が残る鳥坂寺跡です。

鳥坂寺は、かつては柏原の山裾に沿って広大な寺域を有した河内六寺と呼ばれるお寺の一つで、天平勝宝8年(756)には孝謙天皇が巡拝したと伝えられるお寺です。河内六寺の中においては、聖武天皇が奈良・東大寺の大仏を建立するきっかけとなった河内大仏を本尊とする智識寺が有名ですが、遺跡としてその遺構が極めて良い状態で現在に残されているのは、この鳥坂寺です。

この遺跡は、昭和4年(1929)



姿を現した「鳥坂寺金堂基壇」の北面階段

の鴟尾の出土によって注目されるようになりました。鴟尾とは、寺の屋根の両端に付けられた飾り瓦をいい、天守閣のシャチホコのようなものをイメージしていただければよいと思います。

このとき出土したものを基に復元すると、高さは約1・3mになると推定されており、現在は、復元された形で東京国立博物館に展示されています。

業が衰退してきた本市においては、今後、市を挙げて積極的に人口の増加やまちの活性化に取り組む必要を感じています。

このため、平成23年に策定した第4次柏原市総合計画においては、「市民が生きいきとし にぎわいにあふれているまち」を将来像としました。市民生活の利便性の高い都市構造の構築、豊かな自然と調和した産業の育成、健康で安全に暮らせる環境整備などの5つの政策

目標と20の施策目標を定め、市民を中心とする「産・学・官」の協働により、市民一人一人が本市の自然環境や歴史を再認識し、誇りと愛着をはぐくむとともに、人と人とのつながりや交流を通じて個性あるまちづくりに取り組む計画となっています。

この計画を基に、今後も、いにしえから続く本市の未来を築くため、にぎわいと活力にあふれるまちづくりに取り組んでまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 25・39km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 7万2166人
- ◆ 世帯数 3万533世帯
- 〔将来都市像〕市民が生きいきとし にぎわいにあふれているまち
- 〔まちの特徴〕生駒山系の山々と大和川に代表される自然環境に恵まれ、数多くの歴史遺産を受け継いでいるまち
- 〔特産品〕染色(ゆかた、ハッピー、タ



柏原市長 岡本泰明



オルなど)、柏原ぶどう、ワイン

〔観光〕国指定史跡(高井田横穴古墳、松岳山古墳、田辺廃寺、鳥坂寺跡)、竜田越古道、大和川付替え記念碑、大阪夏の陣古戦場跡など

〔イベント〕柏原市民総合フェスティバル、柏原市民文化祭、竜田古道の里山公園さくらまつり、環境フェア、OGATA通りサマーフェスタ、ふさと柏原ぶどう狩りツアーなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまちづくりを目指して

はじめに

人吉市は、昭和17年2月11日に市制を施行して以来、本年で70周年を迎えました。この間、本市は鹿児島県、宮崎県との県境に位置する地理的な利点を生かして南九州の拠点としての都市機能の充実などに努め、人吉球磨地方の中心都市として発展してきました。この記念すべき年に「過去を温めて新しきを知る」をテーマに掲げ、数多くの先人たちに培われてきた古き良き伝統と文化を尊重し、守り受け継ぐとともに、今後なすべきこと、何を残していくべきかを、市民とともに考え、さらに飛躍発展する契機といたしております。

### 農業と観光で稼ぐまちづくり

本市も例外に及ばず人口減少、

高齢化傾向にありますが、積極的な企業誘致に取り組み、恵まれた自然環境・地域資源を生かした商工業の振興を図ることで雇用の場を確保し、定住促進につなげたいと考えています。農業では、就業人口の大部分を高齢者が占める中、後継者の確保や新規就農者の支援をはじめとした担い手育成支援などの問題に対応するため、農産物のブランド化に取り組みとともに、消費拡大のため販路を拡大し、さらに農林業の6次産業化を見据え、あらゆる情報を収集し実践しながら「農業で食べられるまち」を目指して「地産地消」から「地産他商」につなげる積極的な事業展開を推進しています。さらに、交流拠点にふさわしい中核的な観光都市としての充実と経済の活性化のために、観光地のイメージアップを図り、

観光客が求める効果的な情報発信体制を確立させるとともに、温泉、焼酎、鍛冶などの地域資源を生かした魅力とにぎわいに溢れるまちづくりを目指します。

### 肥薩線の世界遺産登録推進に向けたまちづくり

本市を走る肥薩線は、熊本県の八代市から鹿児島県の霧島市を結ぶ九州旅客鉄道の鉄道路線で100年の歴史を有し、現在も当時のままで稼働している世界的にも価値のある鉄道遺産です。平成19年に経済産業省が選定した全国の「近代化産業遺産群33」のうちのひとつとして、肥薩線関係では駅舎など13件が含まれていま



現在でも熊本駅から人吉駅間までを運行する「SL人吉」

つなぐ協議会」の活動機運を高め、本年度は市内に「肥薩線世界遺産推進室」を新設して、本格的な文化財などの学術調査にも着手しています。世界遺産登録推進という夢に向け、行政と地域住民が一つになって活動することもまちづくりの大きな活力となっています。

### 相良700年の歴史文化と、清流球磨川が輝く自然安全なまちづくり

本市には国宝青井阿蘇神社をはじめとした多くの文化財と、およそ700年にわたる相良一族の統治の歴史がいくんだ文化があり



日本三急流の一つ「球磨川下り」

ます。さらに、動力飛行の第一人者である故日野熊蔵氏や元読売巨人軍の川上哲治氏、黎明期に渡米して技術を習得し、明治、大正、昭和の三代にわたる天皇の歯科侍医を務めた故一井正典氏など多くの偉人を排出しています。次世代を担う人材の育成こそ本市が発展するための重要な施策です。そこで、その時代に生きた人そのものが歴史の継承者であることに焦点を当て、子どもたちが安心して学ぶことができる質の高い教育を推進し、豊かな人間性やたくましく「生きる力」を持つ子どもたちの育成を目指すとともに、市民が自らの個性と能力を伸ばすことができるように生涯学習の充実やスポーツの振興を図っています。また、球磨の山々と清流球磨川水系といった豊かな自然環境を保全し、後世に伝える責務があります。そのためにも、地域資源の有効利用を図り、持続可能で自然環境への負荷が少ない循環型社会の形成に努めています。

### 信頼と連携で力を合わせるまちづくり

市の発展には住民が住み続けた



人吉市長 田中 信孝

### プロフィール

- ◆ 面積 210.48 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万5444人
- ◆ 世帯数 1万5811世帯

〔将来都市像〕市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまち

〔まちの特徴〕熊本県の最南端に位置し、市の中央部を日本三急流の球磨川が流れ、相良700年の歴史を物語る数多くの文化財が存在し、古い町並みなど点在する山紫水明の城下町

〔特産品〕 鮎、球磨焼酎、きじ馬、花



手箱、刃物、球磨茶、きくらげ、とうがらし、栗  
〔観光〕 人吉城跡、温泉、球磨川下り、鹿目の滝、相良家墓地、青井阿蘇神社、SL人吉、ラフティング  
〔イベント〕 人吉球磨はひなまつり、人吉梅まつり、日本百名城人吉お城まつり、ひとよし春風マラソン、じゅぐりつと博覧会(春・秋)、人吉花火大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。